

東日本大震災 石巻専修大学 報告書

1 その時、大学は



平成23年3月11日(金)14時46分 東北地方太平洋岸沖でマグニチュード9.0の地震が発生

死者 15,854人 行方不明者 3,276人 (平成24年2月29日現在)

この未曾有の大震災による死者15,854人、重軽傷者6,023人、行方不明者3,276人(平成24年2月29日現在)。日本国内で起きた自然災害で死者・行方不明者の合計が1万人を超えたのは戦後初めてである。

被災地の中でも、最も被害が大きいとされる石巻地域にあって、石巻専修大学はどのような決断をし、いかなる行動を取ったかを、当時キャンパスに居合せた教職員の証言と記憶をもとに、学外の出来事と並列して時系列で記してみた。

学内の経過

3月11日(金) 1日目

14:46 東北地方太平洋岸沖でマグニチュード9.0の地震が発生。
電気、電話が止まる。

揺れが収まろうとする時、のちに災害対策本部長となる鈴木均理工学部長の指示により、学内にいた学生、教職員(約300人)の安否確認を開始。

(地震発生当時、坂田隆学長が北海道へ学会出張のため不在であったため、「石巻専修大学防災業務計画」に基づき、理工学部長と事務部長が本部長となって、陣頭指揮を執ることになった。)

15:00 学内に災害対策本部(本部長鈴木均理工学部長)を設置(当初は学長室、のちに本館1階)。対策本部の構成員は、学校法人専修大学・石巻専修大学担当・今野健吾常務理事、山本静事務部長、学生部長・山崎省一教授。

校内放送により、食堂前の中庭に集合するように呼び掛ける。その後、雪が降ってきたため、本館1階ロビー前に移動。校舎・施設の維持管理を行う中央監視室が、学内の損傷状況確認作業を開始。

学外の経過

3月11日(金)

14:46 宮城県北部で震度7の地震。震源地は三陸沖で、マグニチュード(M)8.8は観測史上最大(後にマグニチュード9.0に訂正)。

14:49 気象庁が青森から千葉にかけての太平洋沿岸に大津波警報発令。

14:49 岩手県知事が陸上自衛隊に災害派遣を要請。宮城、福島、青森各知事も続く。

15:00 東北電力女川原子力発電所1～3号機の原子炉が自動停止。

15:18～50 宮古、釜石、大船渡、石巻、相馬などに津波の最大波。

学内の経過

学内の非常用電源を稼働すると共に、燃料確保の観点から ……… 最小限の熱源稼働にとどめた。

本館以外の水栓を閉栓。

1台だけあったワンセグ受信可能なテレビで情報を得られるようになった。

15:20 大きな揺れが収まったことから、食堂内で待機するように、学生、教職員に移動するよう指示。

15:50 ラジオの緊急放送から大津波警報が発令されたことを受けて、学生を5号館3階に移動するよう指示。

学内の教職員、学生全員が無事であることが確認される。

16:00 旧北上川(本学は、海より5キロ付近の川沿いにある)の逆流を確認。

16:30 近隣地域住民が本学に避難してくるようになる。

16:50 学生、教職員に非常電源のある本館2階に移動するよう指示。

17:30 一部の教職員に帰宅許可を出す。安否確認を含め学内に残っている学生、教職員のリストを作成する。

17:40 学生、地域住民を正式に受け入れ開始。

18:00 テレビのニューステロップで、門脇小学校全焼との報道が流れる。

18:30 備蓄していた非常食と水、学内にあった毛布を学生、教職員に配布。

19:00 石巻市内、床下、床上浸水の情報が入る。
帰宅を試みて断念した職員より、市内の情報が伝えられる(翌朝ハザードマップを作成)。

非常用電源について
燃料となる軽油がなくなったので重油で対応した。

3月12日は1・2号館の発電機を停止。夜、1号館の発電機を再稼働。

3月13日は、1・2号館とも発電機を完全停止。森口記念館の発電機は最後まで稼働していた。

学外の経過

15:20 石巻市鮎川で3.3mを越える津波を観測。

15:48 石巻市旧市街地に津波到達。

15:55 仙台新港で高さ約10mの津波を確認。

16:12 官邸で全閣僚出席の緊急災害対策本部会議。

16:13 宮城県のほぼ全域で停電。
石巻市全体のライフラインがすべて停止。携帯電話も20時以降利用不能。

その時、大学は [2]

学内の経過

21:00 教職員に帰宅許可・解散の指示を出す。帰宅できない教職員に対して、職員は本館1階事務室、教員は2階教員室などを宿泊場所とすることを決める。地域住民の宿泊者リストを作成する。

3月12日(土) 2日目

午前中 事務職員は役割分担を行うためにグループを編成(ローテーションによる事務室待機当番・名簿作成等)。

1～5号館、体育館、その他施設の損傷の有無について、職員による目視での見回り。損傷が確認された。

薬品類が置かれた実験室がある1号館・2号館の封鎖を指示。

貯水槽より50 Lのバケツ約10個分の水を確保。

仮設トイレ設置(5基)。

学生、教職員の安否確認情報を収集するサイトを専修大学(東京・神田)に公開。

12:10 全学生、教職員の安否確認開始を指示。

15:50 避難場所を学生・教員は本館2階、一時避難者(地域住民含む)は本館3階フロア・1階ロビーと決める。

〈この時点においても、石巻周辺の鉄道、バスなどの交通機関の運行状況や走行可能な道路の情報は依然として不明であったが、仙台方面から来た記者たちから伝えられた。「小牛田あるいは鹿島台を経由すれば仙台に到達できる」との情報を頼りに、数人の教員が帰宅する。〉

自衛隊のヘリコプターがグラウンドに着陸。避難者を本館3階フロアに誘導する。

20:20 気仙沼、石巻、東松島、塩釜、七ヶ浜、多賀城は孤立しているとの情報が入る。

学外の経過

23:03 宮城県全市町村に災害救助法の適用を決定。

3月12日(土)

01:50 石巻市、県へ避難所の食糧など要請。

02:10 自衛隊ヘリによる空中消火開始(日和山)。

・警察庁の発表:岩手、宮城、福島などの5県の死者・行方不明者1,700人を超え、計21万人が避難。

・仙台市若林区荒浜の海岸で200～300人の遺体を確認される。

15:36 東京電力福島第1原子力発電所1号機 建屋爆発。

20:20 宮城県に出されていた大津波警報が津波警報へ引き下げられた。

22:45 自衛隊による救出者数:
3月11日 127人
3月12日 510人
計637人

学内の経過

3月13日(日) 3日目

午前中 教員に対して、各自が管理している薬品類の確認を行うように指示(1・2号館)。

建物の耐久性に問題があった石巻合同庁舎にいる避難者300人の受け入れ要請がある(食糧と水がないので断る)。

総合運動公園に臨時に設置された自衛隊基地に支援等の要請に行く。

石巻赤十字病院に臨時に設置された石巻市役所臨時連絡所に支援等の要請に行く。

〈この頃、学内にいる避難者(学生、教職員、地域住民)は約700人。〉

13:00 石巻市社会福祉協議会防災担当が来学し、災害ボランティアの拠点、物資供給拠点として、キャンパスの使用を要請される。

職員の見回りにより施設・設備の損傷が確認され、記録する。

帰宅できずに学内に避難していた事務職員全員は朝7時に打ち合わせを行うことを決める。

避難者の待機場所を4号館と決める。その後、避難者の誘導にあたる。

18:00 自衛隊より、避難者救助の搬送先として本学の一部施設使用を要請される。

18:30 自衛隊より食糧の物資供給あり。

20:00 石巻赤十字病院から、救急搬送用としてマイクロバスの借用を要請される。

学内の懸案事項について協議。当面の行事、イベントを中止することを決定。

学外の経過

3月13日(日)

・石巻、一部地域で電気が復旧した以外、ライフラインは機能せず、通信網も完全にダウン。

・JR石巻駅前周辺、場所によっては依然1mの浸水。

・気象庁、東日本大震災の規模を世界最大規模のマグニチュード(M)9.0に修正。

・福島第1原発の半径20キロ圏内と第2原発半径10キロ圏内の住民8万人の避難、本格化。

・宮城県内で孤立し救助を求める要救助者数、約2万人以上に上る。

・周囲が水没した県石巻合同庁舎には職員と住民ら計700人が孤立、昼から食料も尽きたとの連絡あり。

17:58 津波に関する全ての注意報が解除された。

20:00 石巻赤十字病院電話復旧。

・東北道、三陸道、常磐道全線通行止め、仙台空港欠航、294万世帯停電、死亡者1,000人、石巻市孤立者1,300人の情報が出る。

その時、大学は [3]

学内の経過

3月14日(月) 4日目

午前中 事務職員は役割分担を行うためにグループを編成(水の確保、食糧調達、名簿作成等)。

学生部が学生のグループ分けを指示する。

〈この頃から、事務職員の仕事に一定の手順が生まれ、運営がスムーズになってくる。〉

〈食糧と水は不足している状況ではあったが、確保の目処がついてくる。〉

10:00 ソフトバンクが学内で携帯電話の貸与、充電サービスを含めた通信サービスを開始(大学周辺では13日深夜から通信サービスを開始していた)。

地域住民が避難している4号館については、石巻市が責任を持って対応することに決まる。

石巻市より、仮設トイレ6基が届く(石巻赤十字病院に臨時に設置された石巻市役所臨時連絡所に要請)。

13:00 事務課の今野久一課員が大学バスを仙台駅周辺まで運行し、在仙の学生を送り届ける。国道45号線は通れないとの情報から内陸部ルートをとった。コースは、大学から曾波神大橋をわたり、(県道16号線、定川付近浸水のため一部迂回)→木間塚橋(鹿島台)→大郷町→(県道56号線)→成田(富谷町)→泉中央→(国道4号線の渋滞を避けて)→宮町(仙台市青葉区)→(県道8号線)→利府。利府で学生が全員下車したので、内陸ルートを通して帰学した。

14:00 飯沼一宇石巻赤十字病院院長が来校し、仮診療所としての施設借用を要請される。

14:30 石巻市長が来学し、避難民受け入れとボランティアセンターとしての施設借用を要請される。本学対策本部より、石巻市に食糧、水、トイレの手配を要請。

学外の経過

3月14日(月)

- ・宮城県警、石巻市、女川町の半島全体で死者が1,000人を超えるとの見通しを発表。
- ・避難者、宮城県で32万人、石巻市では人口の約7割にあたる11万人に達する。
- ・女川町、被災情報本部を女川一中に設置、国道398号と石巻市稲井地区を結ぶ県道経由での外部との車の行き来が可能となる。
- ・石巻開成の市総合運動公園に石巻市災害ボランティアセンターが開設され、物資の受け入れが始まる。
- ・石巻地域、電気の供給再開の見通しは依然として立っていない地区が多い。

01:50 (県災害対策本部より) 護衛艦「たかなみ」が28人を収容し、ヘリによる搬送で5時過ぎに運動公園着→自衛隊により石巻専修大学へ。

3月15日(火)

- ・福島第1原発2号機、格納容器損傷。同原発4号機火災、高濃度放射能漏出。
- ・石巻赤十字病院で、ロビーや廊下に避難する被災者が約500人に達し、緊急治療に支障を来す恐れが出てきた。
- ・宮城県などを中心に東北のガソリン供給が不足。

10:45 電気:須江、蛇田、石巻の順で復旧予定。

学内の経過	学外の経過	1 その時、大学は
22:00 石巻赤十字病院より患者約20人を受け入れる。その後、手術直後の患者も受け入れるようになる。 いまだインターネット不通のため、専修大学(東京・神田)のホームページを経由して、情報発信を開始(一般入試B日程3月22日中止)。あわせて、安否確認情報の掲出を開始した。	水道:収容人数の多い避難所に給水車を配置。 ガス:復旧のめどなし。	2 大学の被災状況
3月15日(火) 5日目 キャンパス内に石巻社会福祉協議会により災害ボランティアセンターが立ち上がる。	3月16日(水) ・多数の被災者が避難している女川原発へのルート、大型車両などの通行可能となる。また、石巻市鮎川に至る県道牡鹿半島公園線の復旧にも着手。	3 地震直後からの大学の対応
NTTによる衛星回線を利用した特設公衆電話(発信専用)が設置される。 石巻赤十字病院の要請に基づき石巻赤十字病院の分室を本館に設ける。ボランティアの医師も集結してきたことから、体育館の研究室とウエイト・トレーニング室の2室を空けて、診療室にする。	3月17日(木) ・宮城県警、地震の「行方不明者相談ダイヤル」を設置。24時間対応。 ・仙台港の一部利用が再開、仙台空港も物資輸送の航空機利用が始まる。 ・村井知事、仙台港地区にある製油所から灯油、軽油の供給が18日に始まることを明らかにする。 ・石巻、中心街をはじめ、水没していた地域の大半で水が引く。	4 地域社会への貢献
3月16日(水) 6日目 学長メッセージ、在学生・教職員へのお知らせを専修大学(東京・神田)ホームページに掲出。	3月18日(金) ・警察庁、午後9時現在のまとめで、死者は宮城の4,030人など12都道府県で6,911人と発表。	5 各学部・委員会などの対応・動向
3月17日(木) 7日目 本学専任教職員全員の安否確認終了。学生は約2割の確認が終了。 特設サイト「石巻専修大学情報」を公開。安否確認情報や、学長メッセージ、各お知らせ等を公開。	・宮城県対策本部、宮城県の避難所で生活する人は約21万人と発表。 ・東北自動車道や国道4号は、全線で緊急車両が通行可能となる。	6 建物と地盤について
3月18日(金) 8日目 平成22年度第25回学部長会議を急ぎよ開催し、震災に関する懸案事項を審議する。 ①学事日程等の取扱いを、新聞発表用に内容を書き換えマ	・午後8時現在で、青森、岩手、宮城、福島各県で29万2,000戸余りが依然として停電。	7 震災を振り返って
		資料編

学内の経過

スメディアにできるだけ周知する。

②平成22年度学位記授与式は中止とし、学位記を配布のみとする。

③平成23年度入学式は延期とする。

④震災復興の状況を踏まえ平成23年度学事暦等を継続的に検討する。

⑤震災被災者支援に係る特別措置として災害見舞奨学生を在学学生(卒業生・修了生除く)、平成23年度及び平成24年度受験生及び入学生に適用する。罹災・被災証明書(公的機関の証明書)の発行が難しい場合には、地域を特定して対処する。

⑥東日本大震災に伴う平成23年度入学試験の対応案として、一般入学試験B日程を特別措置による入学試験に振り替える。大学入試センター試験入試・AO入試C日程・指定校推薦入試C日程・石巻地域高等学校特別入試C日程の実施は、入学試験委員長に一任する。

⑦入学試験受験票の未発送又は受験票紛失等により本人である確認を取ることができない場合、本人の申し出を信頼することとして対応する(専修大学同様)。

⑧平成23年度入学試験に関するホームページ提出原稿案について、一部の文章を訂正し、特別措置による入試及びセンター入試C日程を追加し、ホームページに掲出する。

⑨平成23年度入学試験日及び合格発表日は変更する。

⑩河北新報(3月17日付)に掲載された記事の紹介。

入学試験に関する情報や安否確認の状況を、専修大学(東京・神田)ホームページで掲出。

石巻専修大学のホームページにアクセスした場合は、「石巻専修大学情報」へリンクするように設定。

3月19日(土) 9日目

石巻大橋臨時発着場―仙台駅前間の臨時バスが1日4往復、運行を開始し、本学避難所を後にする学生が多くなる。

3月20日(日) 10日目

電気復旧。

学位記授与式を中止(学内にいた卒業生など10数人には学長、理工学部長から学位記を授与)。

学外の経過

石巻、気仙沼、南三陸町など15市町で、全域が断水、ガスの復旧の見込みたず。

・石巻漁港に、水や食料など救援物資を積み込んだ巻き網船が続々と集まり始める。

・原子力保安院、原発1～3号機の事故を「レベル5」と発表。

3月20日(日)

・午後4時ごろ、石巻市門脇二丁目で、80歳祖母と16歳孫の少年2人を震災から9日ぶりで救出。

・仙台と石巻や気仙沼、青森を除く東北の各県庁所在地を結ぶバス路線が再開される。

・女川町で、6,324人の生存が確認される。

3月21日(月)

・塩釜港に、震災後初めて、ガソリンなどを積んだタンカーが入港。

3月22日(火)

・緊急車両に通行が限定されていた東北自動車道、三陸道、大型車の制限解除。

・東北新幹線、盛岡―新青森間の運行再開。

・日本製紙、石巻工場の撤退の可能性を否定し早期復旧を目指す方針を明らかにする。

18:30 国道45号線の石巻―仙台間の通行止区間が解除。

学内の経過

これ以降、来学した卒業生には卒業証書(学位記)を学長から手渡す(その後1ヶ月続く)。学長不在の時は学部長などがかわって手渡す。

3月22日(火) 12日目

電話復旧。インターネット復旧。
大学ホームページを再開し、情報を発信する。
一般入学試験B日程は、特別措置により対応。

3月23日(水) 13日目

就職活動中の学生への情報、各種入試情報を公開。
石巻専修大学ホームページ復旧。

石巻赤十字病院からの石巻赤十字看護専門学校の学生受け入れと看護師教育機能継続のために施設使用の要請。

3月24日(木) 14日目

新入生オリエンテーションの中止を発表。

3月25日(金) 15日目

入学手続き、授業等について情報を公開。

3月30日(水) 20日目

専修大学より支援物資届く(カップラーメン、カイロ、軍手、ネック・ウォーマーなど)。

3月31日(木) 21日目

入学試験合格発表について情報を公開。

石巻～仙台臨時直通バス(4月1日～)について情報を公開。

学外の経過

3月23日(水)

- ・石巻市、震災後の市民サービスに関する問い合わせ電話「市災害情報ダイヤル」を設置。
- ・石巻ガス、石巻赤十字病院で都市ガスの供給を開始。5月上旬に全供給世帯の復旧を目指すと発表。

3月24日(木)

- ・午前6時、東北、山形、磐越の各自動車道で実施していた一般車両の通行止めが解除される。
- ・石巻市の北上川河口に架かる日和大橋が通行可能になる。
- ・石巻工業港の9岸壁復旧。救援物資を積んだ最初の船が寄港。

3月25日(金)

- ・石巻市の被災状況説明により、市内全人口の76%の市民が被害を受けたことが判明。

3月28日(月)

- ・JR仙石線 あおば通～小鶴新田間運転再開。

3月30日(水)

- ・宮城県、がれき撤去に着手。

6:00 三陸道の通行規制解除。

3月31日(木)

- ・宮城県災害対策本部、県の被害額2兆円を超えると発表。